

Okayama EU Letter

岡山EU協会会報 2024. 9

Vol. 16



2024年度理事会・総会が6月10日（月）、岡山コンベンションセンターで開催された。

総会では会員87名が出席し（委任状含む）、2023年度事業報告並びに収支計算書、2024年度事業計画並びに収支予算書案など原案通り承認した。

梶谷会長は、「岡山EU協会は今年の12月で15周年を迎える。今までEU講座などを展開する中で、EUの理解を深めながら交流を図ってきた。一昨年は、岡山経済同友会でベルギーのEU本部を訪問させていただいた。様々な国や価値観がある中、多様性を認めつつ知恵を集めて運営するという試みは、平和な世界を築くために大いにヒントになるのではないかと述べた。記念講演では駐日欧州連合代表部のアイレ・コーク参事官（政治・広報部長）が「日・EU関係一激動の時代における戦略的パートナーシップ」と題し講演した。

講演後に開かれた懇親会にはコーク氏も参加、交流を深めた。

〔第1号議案〕

2023年度 事業報告

1. 欧州の経済・文化を深く知るため 「EU 講座」を開催など
2023年度岡山 EU 協会理事会・総会を6月13日（火）ホテルグランヴィア岡山で開催した。理事会・総会では任期満了に伴う宮長雅人会長（岡山経済同友会顧問、中国銀行会長）の後任に、梶谷俊介氏（岡山経済同友会代表幹事、岡山トヨタ自動車社長）が選出され、前年度事業報告、収支計算書報告、役員の選任についての承認、2024年度事業計画、収支予算書の承認が行われた。
総会後は、(株)ニッセイ基礎研究所 経済研究部 研究理事（現常務理事）の伊藤さゆり氏が「ロシアによるウクライナ侵攻と米国発金融不安で揺れる欧州の今後と日本への影響」と題し記念講演を行った。また、懇親会を昨年に引き続き着座形式で開催した。
EU 講座開催については、10月16日（月）に第30回と3月14日（木）に第31回を開催した。第30回 EU 講座では、講師に岡山大学地域総合研究センターの岩淵泰副センター長（准教授）を迎え「フランスのまちづくり ～EU と地域のつながりについて」と題して講演し、第31回 EU 講座では、(株)リョービツアーズの小童谷靖則マネージャーを迎え「初めて日本に来たヨーロッパ人 ポルトガル人が日本に与えた影響とポルトガルの魅

力について」と題して講演した。
駐日欧州連合代表部で開催される EU 協会全国総会が、本年度は2024年1月26日に開催され、岡山 EU 協会を含む各地 EU 協会8団体が参加した。総会では各 EU 協会より活動報告が行われ、ジームルス副代表より駐日欧州連合代表部の活動、日本と EU の関係について報告が行われ、今後積極的に各地の協会に出向き交流を深めていきたいと述べた。
2. 「EU Letter」の継続発行
年1回発行しており、10月に第15巻を発行した。
EU 講座28回、29回の内容の他、6月13日開催の理事会・総会での決定事項、事業・監査報告、伊藤さゆり氏による記念講演の講演要旨を掲載した。
3. 岡山 EU 協会のホームページの充実
岡山 EU 協会内外への情報発信強化を目指し、会長あいさつ、協会会則などを常時掲載し、理事会・総会、EU 講座の開催日のお知らせなどをイベントカレンダーとして掲載している。
4. 会員の増強を図る
2023年4月は法人62人、個人50人でスタートした。途中、複数の入退会があり、2024年3月末は法人62人、個人48人となった。今後も入会の声掛けに努め、会員の増強を図る。

〔第2号議案〕

2023年度 収支計算書

(2023. 4. 1 ～2024. 3. 31)

収支決算

収入総額	3,304,142円
支出総額	1,606,487円
差引残高	1,697,655円（2024年度に繰越）

収入の部				(単位：円)
科 目	決算額	予算額	差引額	摘 要
年会費収入	1,485,000	1,530,000	-45,000	
参加会費	344,000	750,000	-406,000	
雑収入	16	14	2	・普通預金利息
前年度繰越金	1,475,126	1,475,126	-	
合 計	3,304,142	3,755,140	-450,998	

支出の部				(単位：円)
科 目	決算額	予算額	差引額	摘 要
総 会 費	761,633	1,000,000	-238,367	・会場費(理事会・総会・講演会) 593,693 ・講演料 他 167,940
EU 講座等 運 営 費	640,162	1,200,000	-559,838	・第30回 EU 講座 475,981 ・第31回 EU 講座 164,181
広 報 費	122,757	150,000	-27,243	・会報発行 116,764 ・ホームページ維持管理 5,993
事 務 諸 費	81,935	150,000	-68,065	・通信費 23,535 ・出張旅費 50,460 ・その他雑費 2,330
予 備 費	-	50,000	-50,000	
合 計	1,606,487	2,550,000	-943,513	

会 計 監 査 報 告

2023年度の会計について監査を執行し、収入・支出ともに正確に記帳整理されており、帳簿・証拠書類の保管は完全であることを認める。
2024年5月13日

監 事 田 村 正 雄
監 事 高 橋 邦 彰

〔第3号議案〕 2024年度岡山EU協会役員

会 長	岡山経済同友会代表幹事	梶谷 俊介	理 事	岡山経済同友会代表幹事	中島 義雄
副会長	駐日欧州連合代表部広報部長	アイレ・コーク（新任）	理 事	岡山経済同友会常任幹事	古市 大藏
副会長	岡山大学学長	那須 保友	理 事	岡山県中小企業団体中央会会長	晝田 眞三
副会長	岡山県国際経済交流協会会長	加藤 貞則（新任）	理 事	大学コンソーシアム岡山会長	井尻 昭夫（新任）
副会長	岡山県経営者協会会長	野崎 泰彦	理 事	岡山県文化連盟会長	若林 昭吾
顧問	岡山県知事	伊原本隆太	理 事	福武教育文化振興財団代表理事・理事長	松浦 俊明
顧問	駐日欧州連合代表部大使	ジャン＝エリック・パケ	理 事	岡山市長	大森 雅夫
顧問	岡山ガス会長	岡崎 彬	理 事	倉敷市長	伊東 香織
理事	岡山経済同友会顧問	宮長 雅人	理 事	山陽新聞社社長	松田 正己
理事	岡山経済同友会顧問	松田 正己	理 事	RSK ホールディングス社長	物部 一宏
理事	岡山経済同友会顧問	松田 久	理 事	岡山放送社長	中静敬一郎
理事	岡山経済同友会顧問	萩原 邦章	理 事	テレビせとうち社長	仮谷 寛志
理事	岡山県経済団体連絡協議会座長	中島 基善	監 事	岡山県商工会連合会会長	田村 正敏
			監 事	岡山県商工会議所連合会専務理事	高橋 邦彰

〔第4号議案〕 2024年度事業計画

1. 欧州の経済・文化を深く知るため「EU 講座」を複数回、開催する
2. 会報「EU Letter」を継続発行する
3. 岡山 EU 協会のホームページの充実を図る
4. 会員の増強を目指す
5. EU との友好促進事業を実施・共催・後援する

〔第5号議案〕 2024年度 収支予算書

(2024. 4. 1 ~ 2025. 3. 31)

収入の部				(単位：円)
科 目	2024年度予算	2023年度実績	差引額	摘 要
年 会 費 収 入	1,545,000	1,485,000	60,000	・法人会費（2法人増強）@20,000円×64 ・個人会員（5個人増強）@ 5,000円×53
参 加 会 費	-	344,000	-344,000	
雑 収 入	16	16	-	・普通預金利息
前 年 度 繰 越 金	1,697,655	1,475,126	222,529	
合 計	3,242,671	3,304,142	-61,471	

支出の部				(単位：円)
科 目	2024年度予算	2023年度実績	差引額	摘 要
総 会 費	650,000	761,633	-111,633	
EU 講座等運営費	600,000	640,162	-40,162	・EU 講座（@200,000円×3回）等
広 報 費	150,000	122,757	27,243	・会報発行 140,000円 ・ホームページ維持管理 10,000円
事 務 諸 費	100,000	81,935	18,065	・通信費 ・消耗品費 ・出張旅費 など
予 備 費	50,000	-	50,000	
次 年 度 繰 越	1,692,671	1,697,655	-4,984	
合 計	3,242,671	3,304,142	-61,471	

講演要約

日・EU関係―激動の時代における 戦略的パートナーシップ

6月10日 2024年度岡山 EU 協会総会 記念講演会 於 岡山コンベンションセンター

■駐日欧州連合代表部参事官／政治・広報部部長 アイレ・コーク 氏

岡山 EU 協会は今年15周年を迎えられ、おめでとうございます。駐日欧州連合（EU）代表部は1974年日本に在外公館を開設し、今年50周年の節目となる。私が担当している部署は政治・広報部で、日・EU 関係の発展のために、本日の講演の機会をいただいたと理解している。

EU はヨーロッパにある27の国による連合。ほぼ全ての国でパスポートを見せずに国境を行き来でき、単一通貨ユーロが使える。EU と日本の関係は1959年、欧州3共同体（欧州石炭鉄鋼共同体、欧州経済共同体、欧州原子力共同体）と日本が外交関係を結んだことから始まった。1974年には欧州共同体（EC）委員会が代表部を東京に開設。50周年となる今年に至るまでEU と日本は協力関係を広げてきた。EU と日本は特に経済と貿易面で大切なパートナーだ。ほとんどの商品で輸出入にかかる関税が撤廃され、ヨーロッパ産のワインやチーズなどがより身近になっている。安全保障や気候変動、AI（人工知能）、人権などの分野でも共に取り組んでいる。

欧州議会選挙

ちょうど今日、欧州議会選挙の結果が出る日だ。私たち代表部で働く者にとって、欧州議会選挙は非常に大きな意味を持っている。まず新しい首脳陣がこの選挙を受けて選ばれる。欧州議会選挙はEU の市民から見、EU がどのように受けとめられているのか審判を仰ぐ機会になる。

有権者の数では、インドに次いで世界で2番目に多い選挙だ。欧州議会選挙では、EU 加盟各国で選挙が行われ、各有権者がそれぞれの国の代表に投票する。私の場合はエストニア人なので5年ごとにエストニアを代表する政治家を選挙で選び、フランスならフランスの代表者を選ぶという形で、それを受けて各国代表がEU 議会内で政治会派と呼ばれるグループを形成する。

欧州議会選挙は今年6月6日から9日までの期間で開催された。エストニアでは投票期間中毎日、いつでも投票ができる。エストニアはデジタル化が進んでいて、欧州議会選挙でオンラインでも投票ができる唯一



の国だ。

欧州議会選挙を受けて首脳陣が入れ替わる。欧州議会議員が新しく選出され、それを受けて、欧州議会の議長、さらには欧州委員会の委員長が新しく選任される。私の上司にも当たるボレル外務・安全保障政策上級代表は退任し、新しい人になると思う。EU の加盟国27カ国の各国から選出される欧州委員会委員の顔ぶれも変わる。つまり大きな首脳陣の変化がこれから起こる。

欧州議会選挙で話題になるのが、右傾化、右翼の台頭だ。ポピュリスト政党が台頭しているという話は必ず出てくる。ポピュリスト、大衆迎合主義的な政党が増えているが今回の選挙が初めてではなく、ポピュリスト政党の中にもいろいろ分かれている。非常に過激な右派が台頭と言っても、単独では強い勢力ではない。例えばフランスのルペン氏、イタリアだとメローニ首相が右派の代表としてよく挙げられるが、この2人にしても、違う政党会派に所属している。

各議員が選ばれた後、それぞれが政党会派に所属するという意味でグループをこれから形成していく。まだ会派は分からないのであくまで予測ベースのことになる。

欧州理事会、つまりEU 加盟国各国の首相らが次期欧州委員会委員長を指名し、委員長候補は欧州議会投票にかけられ、信任を受ける。それが早ければ7月の中旬、遅ければ9月頃。そこは欧州議会が決定権を握っている。



課 題

新しい欧州理事会常任議長、欧州委員会委員長、EUの上級代表が選ばれ、その新しい首脳陣は今後さまざまな課題に直面する。これから任期を迎える首脳陣がかかえる既存の課題は、未来にわたっても取り組みを続けなければならない課題だ。

コロナ禍が終わってみれば、世界が非常に大きく変わっていることを改めて認識させられたのが今のEUの課題だ。つまり大国が競い合い、デジタル化が一気に進み、地球温暖化など様々な脅威に直面する。そういう世界に今いる。

大国間でますます地政学的な競い合いが行われている。今ウクライナでは戦争が起きていて、大国間で力を争い、国際法や国連憲章、ルールが守られない状況が起きている。このように国際秩序が守られず、ウクライナで戦争があり、開かれた国際経済システムが機能していないという問題がある。

それ以外にEUが直面している課題が2つある。一つはデジタル化の問題だ。デジタル化は脅威にもチャンスにもなり得る。日本との協力にとっても非常に大きな可能性がある分野だ。脅威としては、例えばハイブリッドの脅威、サイバー攻撃の問題、偽情報、外国による情報操作・介入という問題がある。一方、チャンスとしては、デジタル化が新しいチャンスを生んでいる。AIを使えるようになるための様々なスキルや必要な規則、規範を作っていく必要がある。

もう一つの大きな課題は、気候変動や温暖化への対応だ。この点に関しては、日本と長年の協力関係があり、「グリーン・アライアンス」と言われるパートナーシップを締結している。

ウクライナ情勢

ウクライナの戦争の問題は非常に重要だ。これはEUの戦争ではなく、欧州の戦争だ。EUとして大きな予算を割いてウクライナを支援している。この戦争を受けてEUの安全保障・防衛が再定義された。つまり、新しい現実、新しい多国間主義に関する挑戦を認



識することになった。

日本の皆さまに感謝を申し上げたいのは、日本がこの戦争で継続してウクライナを支援しているという事実だ。岸田総理大臣もたびたび、欧州とインド太平洋地域の安全保障は不可分と発言している。

ウクライナの支援は、単に政治上の言葉ではない。例えば今日、ベルリンでウクライナの復興に関する会議が行われている。また今年2月には日本で「日・ウクライナ経済復興推進会議」が日本の主催で開催された。こうした様々な日本の支援は、ヨーロッパでも認識され、大変感謝されている。

1945年以降の国際秩序を支えてきた大事な制度、国連憲章をロシアが完全に無視、違反をしているという状況は武力による国境の一方的な変更であり、日本にとって非常に懸念すべき状況だ。

戦争が始まって以来、ウクライナから多くの避難民がヨーロッパに入り、またヨーロッパからウクライナに帰る動きがあり、戦争の開始当初だけでも2,000万人ぐらいが移動し、多くの人がウクライナに戻ったが、EU域内にとどまっているウクライナ難民もいまだ400万人ほどいる。EUも大きな資源を割いてウクライナの支援を継続的に行ってきた。ロシアが勝ってはならない。ロシアが勝利をしてしまうと、EUのみならず世界にとって大きな影響を及ぼす。

この過去2年で、EUはウクライナとEU加盟交渉を開始した。つまりEUに入る門戸を開いた。支援総額も1,000億ユーロを超え、日本円で16兆円近くの大きな支援をこれまで行ってきた。ウクライナの戦争は私たちの目を覚ました出来事で、EUが目指すべき世界のビジョンも変わることになった。

EUはこれまで欧州に戦争が回帰するとは思っていなかった。そのため軍事防衛産業に対する資金提供の能力が少し欠けており、ミサイルの数、弾薬が足りないという状況が起きている。

安全保障

(EUは) 変化に対するための様々な制度、資金な

どの枠組みを新しく創設した。過去2年、4年の間に新しく様々な予算的な措置を行ってきた。一部ウクライナ戦争を受けてのものもあるが、それ以前から、例えばロシア、中国の台頭、デジタルの脅威など、EUが世界のアクターとしてより強くなければならないという認識から作られた。

軍事、安全保障、防衛に関して、EUは安全保障、防衛面を強化することで、NATOにとって代わるというものではない。あくまでNATOを補完するような存在になろうとしている。NATOはメンバー各国の軍隊が集まり、司令部もあり、指揮命令系統となる軍隊、戦争ができる能力を備えている。それとは違ってEUはあくまで防衛能力などを強化し、NATOを補完することを担っていこうと考えている。

安全保障で大事なのが、経済安全保障の問題。そういった背景を受けて、欧州委員会と欧州連合（EU）外務・安全保障政策上級代表は昨年6月、「欧州経済安全保障戦略」に関する共同コミュニケーション（政

策文書）を発表した。その中にある一番基本的な考え方は「リスクを削減していく」ということだ。ボレル上級代表は、様々な政治的、経済的な統合も安全保障の観点から再評価しなければならないと言っている。

最後に日・EU関係で一つだけ強調しておきたいのは、インド太平洋地域において日本はEUにとって戦略的パートナーであるという点だ。例えばそれがウクライナの戦争であれ、経済安全保障の問題であれ、国際秩序を守っていくということにおいて、日本はパートナーである。様々な脅威があり、取り組むべき課題がある。志を同じくする国との連携を深め、共に対応しなければならない。

最後は前向きな話もしたい。私たち駐日EU代表部は来年、「大阪・関西万博」が開催される時に、独自のパビリオンを出展するので、ぜひ見ていただければと思う。

今日はお出席いただき、ありがとうございました。

都道府県知事とEU加盟国大使との懇談

●都道府県知事とEU加盟国大使との懇談が令和6年1月29日（月）、東京都港区南麻布にあるヨーロッパハウスで行われ、県知事や大使ら21人が意見を交わした。

●本会合は今回が初の開催。

EU代表部のジャン＝エリック・パケ大使が令和5年10月に岡山市内で開かれた「第33回北前船寄港地フォーラム in OKAYAMA」に参加された際、伊原木岡山県知事に都道府県知事とEU加盟国の大使との意見交換の場を設けたいと提案したことがきっかけ。

伊原木岡山県知事が全国知事会会長に諮り、開催することとなった。

●都道府県からは、伊原木岡山県知事をはじめ、全国知事会会長である村井 嘉浩 宮城県知事、平井 伸治 鳥取県知事など9名の知事が参加した。

●EU加盟国からは、EU代表部のパケ大使をはじめ、フランスのフィリップ・セトン大使、ドイツのクレメンス・フォン・ゲッツェ大使など12名の大使が参加した。

●冒頭、発案者であるEU代表部のパケ大使から「日本と欧州との関係は1世紀にわたる中、文化や技術の交流が続いている。さらに関係を深めていきたい。」とあいさつ。続いて、日本側の代表として伊原木岡山県知事から「本日の会合が、この場だけで終わるのではなく、次へと広げることで、日本と欧州をさらに近づける機会としたい。」と述べた。

●続いて、各大使と知事によるプレゼンテーションが行われ、県知事とEU加盟国大使が交互に自県や自国の紹介を行った。

●プレゼンテーションに続いて、フリーディスカッションが行われ、大阪万博やパリオリンピックの機



会を捉えた情報発信、留学などを通じた若い世代の人的交流について、県知事と大使の間で活発な意見の交換がなされた。

●意見交換後、全員で集合写真を撮影。

引き続きレセプションが行われ、地域間の交流拡大に向け、県知事と大使らが親交を深めた。

出席者

ジャン＝エリック・パケ 駐日欧州連合（EU）特命全権大使
 ドラジェン・フラスティッチ 駐日クロアチア共和国特命全権大使
 マルチン・クルチャル 駐日チェコ共和国特命全権大使
 タンヤ・ヤースケライネン 駐日フィンランド特命全権大使
 フィリップ・セトン 駐日フランス共和国特命全権大使
 クレーメンス・フォン・ゲッツェ 駐日ドイツ連邦共和国特命全権大使
 ジャンルイジ・ベネデッティ 駐日イタリア共和国特命全権大使
 アンドレ・スピテリ 駐日マルタ共和国特命全権大使
 ヴィトル・セレーノ 駐日ポルトガル共和国特命全権大使
 オヴィディウ・ドラング 駐日ルーマニア特命全権大使
 ユーリ・リフェル 駐日スロヴェニア共和国特命全権大使
 ペールエリック・ヘーグベリ 駐日スウェーデン王国特命全権大使

村井 嘉浩 全国知事会会長／宮城県知事
 杉本 達治 福井県知事
 山本 一太 群馬県知事
 大井川和彦 茨城県知事
 黒岩 祐治 神奈川県知事
 河野 俊嗣 宮崎県知事
 伊原木隆太 岡山県知事
 平井 伸治 鳥取県知事
 長崎幸太郎 山梨県知事

第30回 EU 講座

「フランスのまちづくり ～ EUと地域のつながりについて」 岡山大学地域総合研究センター 副センター長(准教授) 岩淵 泰 氏

EU との交流促進を目指す岡山 EU 協会（梶谷俊介会長）の第30回 EU 講座が10月16日（月）、岡山市北区の ANA クラウンプラザホテル岡山で開かれ、岡山大学地域総合研究センターの岩淵泰副センター長（准教授）が「フランスのまちづくり ～ EU と地域のつながりについて」と題して講演した。会員ら約30人が聞いた。開会にあたり梶谷会長が「EU は国も歴史も民

族も違う中で、ひとつの EU という経済的・政治的な連合をつくり、統合してより良い地域づくりに邁進している。特にウクライナ情勢などで利害が必ずしも一致しないことも多いと思うが、そうした中でもまとまった行動をしようと努力し取り組んでいることに感心している。その根幹は各地域で自治をし、お互いの違いを認め合いながら、全体として共通の価値観でまともまっていこうとする姿勢だと思う。ふり返って日本国内では地方創生が叫ばれて数年経つが、未だに自分の地域は自分で創るという自治の精神が乏しく国がしてくれるという感覚をもっているのではないか。本日は岩淵先生からフランスのまちづくりについてご講演をいただく。本日が岡山における自治はどうあるべきかなどについて考えるきっかけになればと思う」とあいさつ。久山裕士事務局長が岩淵氏の経歴を紹介した後、講演に移った。岩淵氏は、「365日、毎日違ったチーズが食べられると言われるほど多様なアイデンティティを持つフランス。そのフランスのまちづくりについてお話しする」と述べ、フランス革命以降の歴史を紹介



しながら、フランスのまちづくりや地方制度について講演した。フランス政府は、グローバル化や EU 化に対応するため地域に権限を与える地方分権を進めてきたこと、フランス国内では EU 化と地域化が同時に進んでいることなどを説明した。また、EU 移行で国境の往来が自由になったことで、都市間競争が激しくなっていると指摘。教育に力を入れて若者の定着を目指している都市ストラスブールの事例を紹介し「各都市は住みやすいまちをつくり、大学や研究機関、企業を誘致しようと懸命になっている」と述べた。さらに、日本が行政の効率化のために市町村合併を進めたのに対し、フランスは現在でも 3 万 5 千ものコミューン（市町村）があり、平均人口は 2 千人足らずであると説明。

「フランス人にとっての効率的なサービスとは“身近にある”ということである。遠くにある大きな図書館より近くにある小さな図書館がいいというのがフランスの文化。小さくても便利なまちづくり、歩きやすいまちづくりをしている」と話した。講演後には講師の岩淵氏を交えて着座形式の懇親会も開催した。

第31回 EU 講座

「初めて日本に来たヨーロッパ人 ポルトガル人が 日本に与えた影響とポルトガルの魅力について」

リョービツアーズ マネージャー 小童谷 靖則 氏

EU との交流促進を目指す岡山 EU 協会（梶谷俊介会長）の第31回 EU 講座が3月14日（木）、岡山市北区の岡山コンベンションセンターで開かれ、会員ら約40人が参加した。講師にはリョービツアーズの小童谷靖則マネージャーを迎え「初めて日本に来たヨーロッパ人 ポルトガル人が日本に与えた影響とポルトガルの魅力について」と題して講演した。開会にあたり梶谷会長が「本日は EU の中でも案外馴染みがないポルトガルについて、リョービツアーズの小童谷様に講演いただく。小童谷さまは、岡山経済同友会の海外視察でもお世話になっており、視察先の選定なども含め現地の事情を細かくご案内いただき、毎回安全で有意義な視察旅行ができています。小童谷様の豊富な海外経験、ネットワークから様々なことを伺えるのではないかとあいさつ。小童谷氏は、「1543年、台風により種子島に漂着した明船に乗船していたポルトガル人が日本に最初に足を踏み入れたヨーロッパ人だ」と話し、ポルトガルが日本の歴史に与えた影響を振り返った。火縄銃やキリスト教、西洋医学、航海学、天文学、造船技術、印刷技術など多くのことがポルトガルから伝えられたと述べ、たばこ、合羽、天ぷらやカステラなど、ポルトガル語由来の日本語が多いことも紹介した。ポルトガルの国民性については「シャイで勤勉で冒険心が強



い。気質が日本人と似ていて親しみやすい」と説明。

ポルトガルの魅力については、春夏秋冬で開かれるさまざまなフェスティバル、訪問すべき世界遺産の数々や、食すべき郷土料理、手に入れた工芸品など、写真を示しながら紹介した。大航海時代の栄華を今に伝えるジェロニモス修道院などの世界遺産、バカリャウ（干しだら）などの食材をつかったポルトガル料理、あざやかな色彩とデザインのタイル「アズレージョ」などを詳しく、そして楽しく解説した。「私は世界64か国を訪れたが、プライベートで最も行きたい国がポルトガルであり、本日も紹介した」と強調した。

最後に、「来年の大阪・関西万博ではポルトガル館ができると聞いている。ぜひ足を運んでいただき、ポルトガルの魅力に触れてほしい」と呼びかけた。講演後には講師の小童谷氏を交えて着座形式の懇親会も開催した。

岡山 EU 協会よりお知らせ

第32回 EU 講座ご案内

第32回 EU 講座は令和7年2月10日（月）16：30分～開催予定。

詳細は後日ご案内いたします。

岡山 EU 協会 事務局

〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15
岡山商工会議所ビル5階
（一社）岡山経済同友会内

T E L : 086-222-0051

F A X : 086-222-3920

E-mail : jimukyoku@okayama-eu.jp

U R L : <https://okayama-eu.jp>